

今夏行われました立教大学「奥中山ワークキャンプ」の際、小さき群の里を利用される方々から、交流の証として、羊毛で紡がれたタペストリーを頂きました。それは立教のエンブレムを型どったものでした。立教のエンブレムは、真中に十字架が置かれ、その上に「立」の字と、開かれた本がデザインされています。その本には「PRO DEO ET PATRIA」と記されており、その周りを「1874年」の創立年がローマ数字で囲んでいます。

今年、立教は開学150年を迎えました。その記念の年にふさわしいプレゼントを、私たちの来訪に合わせて、ご準備くださったことに、改めて奥中山の方々の温かさを思います。

エンブレムに刻まれた「PRO DEO ET PATRIA」を、立教は「普遍的な真



立教大学
中川英樹チャプレン。

理を探究し、私たちの世界、社会、隣人のために」と解します。では「普遍的な真理」とは何か…それは「人の存在には価値がある」ということ、そして、その尊厳ある存在としての人を、神はどのように愛そうとされるのか…その神の愛という真理を探究することが、私たち立教の開学以来のMissionです。

けれど、そうした愛なる神の真理は、教室での「座学」だけでは完結できないと私たちは考えます。なぜなら、愛



立教タペストリー。
(直径20センチ)

としての神の真理は他者と共に生きることの中でのみ見いだし得るものだからです。故に、立教はこの学び舎で学ぶ学生たちにキャンパスの外「場(Field)」に出、他者と出会うこと、その関係の中に「身」を置くこと「場学」を推奨してきました。キャンパスの外の「場学」の場、その一つが奥中山です。

立教にとって、奥中山という「場学」の場は、ここに生き暮らす人たちのつながりを通して、愛としての神の真

神の真理は共に生きることの中に

立教大学チャプレン
中川英樹



144

No.144

発行日/2024年11月15日
編集/社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナンの園

〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361-0126

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会(略称TSK)

〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎一丁目二一六 頒価百円

お知らせ

感謝

9月2日から9月8日まで小さき群の里で活動された立教大学奥中山ワークキャンプの皆さん。ペン（スマホ？パソコン？）をスコップや一輪車に持ち替え、額に汗して活動して下さいました。慣れない作業だったことと思いますが、奥中山で流した汗は決して忘れることがない、と信じています。ありがとうございました。



慣れない作業に汗して…。

あとがき

機関誌第144号をお読みいただきありがとうございました。今回はウィズ事業所で春まで共に汗を流した中嶋匠さんの様子を特集してみました。私はシャロームとウィズの事務を担当していることもあり、彼がウィズに通い始めた頃からずっと傍らで応援し、事業所の行事では共に楽しい時間を過ごしてきました。ウィズで職員の片腕となって積極的に仕事をする姿、朝すれ違う際に照れたように手を挙げてあいさつしてくれる姿が思い出されます。

そんな彼の明るい人柄とさまざまなことに努力する姿を見てきた仲間たちですから、3月の送別会では皆が惜しみ、励まし、涙・なみだの会となりました。私も涙があふれましたが、別れの寂しさではなく、彼の努力の日々を振り返りつつ、これからの希望に満ちた旅立ちを共に喜べる（母のような！？）喜びの涙でした。

お母さまにも時々お会いするのですが、4月からはより満面の笑顔でお話しされる様子を拝見し、良い旅立ちだったのだなぁと思わされます。

私たちの仕事は、こんなふう希望に満ち、皆が喜べるような旅立ちに立ち会うことばかりではない現実もあります。それでも、こんなかたちで新たな出会いが与えられ、共に過ごす時間を経て、希望に満ちた旅立ちに心からのエールを送ることができる。こんなぜいたくな幸せを頂けるのも確かな現実です。

(シャローム事業所 金田一まゆみ)

Scope & Spot



身体を動かすこと、絵を描くことが大好きな千葉正樹さん。シャロームでは出勤後縄跳びから1日を始め、仕事を終えた後の退勤前には、腹筋や体幹トレーニング、ストレッチなどをする日々です。運動を頑張って目標を達成し、職員と大好きなラーメンと唐揚げを食べに行ってきました。

帰りに「北上川源流弓弭（ゆはず）の泉」に寄り、「花きれい、川あるぞ」と景色を楽しみながら散策もしてきました。

新たな絵の題材を見つけたかは聞けませんでした。運動では、(次は)「肉食いたいなー」と新たな目標達成に向けて励む日々です。

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。お読みになってのご意見、ご感想などを事務局までお寄せください。

社会福祉法人カナンの園

カナンの園法人事務局

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山
字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園 ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 ゆいまある ☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 小さき群の里 ☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
- 共同生活援助事業所 ののさわ (グループホーム1～6) ☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
- 生活介護事業所 ヒソプ工房 ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 共同生活援助事業所 HANA (盛岡地区グループホーム1～5) ☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 特定相談支援事業所 らぼーる ☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
- 生活介護事業所 シャローム ☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884

- 就労継続支援B型事業所 ウィズ ☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
- 就労継続支援A型事業所 カナン牧場 ☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
- 共同生活援助事業所 美空 (グループホーム1～10) ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 居宅介護事業所 れもん ☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび ☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
- 多機能型事業所 となんカナン ☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
- カナン市場 (カナンの園商品一括取扱所) ☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

学校法人カナン学園

- 三愛学舎 (特別支援学校高等部・知的) ☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

本誌は環境に配慮した紙を使用しています。

特集

新たな門出

——ウイズから新しい世界へ——
中嶋匠さんの歩み

創立52年のカナンの園では、人生の大半をカナンの園を利用しながら生活し続けている方がおられる一方、一定期間を過ごし、別のステップに進む方もおられます。今回は、カナンの園のウイズ事業所で6年間過ごした後、今年度4月より、「ご自分の夢であり目標でもあった地元企業への就職という道を歩み始めた中嶋匠さんをご紹介します。」

まずはウイズ事業所で共に働きながら彼の成長を感じ取ってきた安ヶ平がインタビューした様子をご紹介します。次に匠さんを正規社員として採用した（株）二戸製材所の梅垣俊輔社長に、迎え入れに当たっての思いなどを寄稿していただきました。新しい環境の中で、努力を惜しまず、充実した日々を送る匠さんの姿を思い浮かべながらお読みいただければ幸いです。

聞き手・ウイズ事業所副所長 安ヶ平淳一

周囲の仲間たちが支えてくれた

——中嶋さんは、2017年10月よりウイズ事業所を利用開始し、私たちと共にリサイクルや畑の作業に取り組みました。経験を重ねて自信を深め、一般企業への就労の道を目指している姿を頼もしく見ていました。そして、会社の理解、ご家族や周囲の方々の協力もあり、夢を実現しました。今日は、ウイズでの経験や現在の仕事についてお話を伺いますので、よろしくお願ひします。初めに自己紹介をしていただけますか。



毎日、笑顔で頑張っています。

中嶋 中嶋匠です。28歳です。一戸製材所に勤めています。趣味、楽しみはスポーツ観戦です。車も好きです。

——ウイズ事業所に来たときのことを聞かせてください。

中嶋 ウイズの前に、初めはカナン牧場で実習しました。体験というかたちでしたが牧場で働くのは厳しいだろうな、と感じました。そこで当時のウイズの所長から、来てみないかと紹介してもらいました。ウイズでは全てが初めての作業だったので分からないことが多かったのですが、周りのみんなが声を掛けてくれてとてもありがたかったです。覚えやすい作業だったのですぐにできるようになりました。

——いつから一般就労（*）について考えていましたか。

中嶋 はじめは高校を卒業することが目標で、その次の目標が会社に就職することでした。ウイズに通いながら通信制の高校を卒業するために、いろんな職員さんに勉強も教えてもらい、頑張っ無事に卒業できました。うれしくて、自信にもなりました。ありがとうございます。

——そうでしたね。ウイズの仕事が終わってから、職員と一緒に残って学校の宿題や勉強をしていました。そればかりではなく、ウイズではフォークリフトの資格取得や刈り払い機講習への参加、パソコンの使い方の勉強もしましたね。

ところで、一戸製材所での仕事はどうですか。

中嶋 最初に比べたら身体も心も慣れてきました。去年の9月頃から実習を何回かやらせてもらったこともあって、慣れるのは早かったように思います。木の種類だけでなく、大きさ、太さ、長さなど、いろんな木があって加工の仕方も変わるので見極めが大変でした。今は3種類の木を扱っています。少しずつ分かるようになりました。

——仕事で楽しく感じることは何ですか。

中嶋 木を加工し、それが製品になってトラックで運ばれていくと「いいものをつくったなあ」と感じます。どこかできつった製品が使われていると思うとうれしく感じます。

——それはうれいでしょうね。最後の質問になりますが、新しい生活が始まり、さらに夢や目標はありますか。
中嶋 今、車が欲しいです。欲しいの

はトヨタのヴェルファイアです。そのために少しずつ貯金しています。

——夢がかなったら、ぜひその車でウイズの皆さんに会いに来てください。楽しみにしています。今日はいろいろと聞かせていただき、ありがとうございます。

*一般就労・福祉事業所で働くことを福祉的就労、一般企業などで働くことを一般就労と使い分けています。



ペットボトルのリサイクルに取り組んでいた頃。

中嶋 一般就労に向けたスキルアップのためです。フォークリフトはウイズの仕事をしていて、少しでも運転できる人がいれば仕事が進んでいいなと思っていました。自動車の運転免許も持っているのですが、自分にもできると思っています。刈り払い機講習は受けて使えるようになるとウイズのブルーベリー畑で役に立つと思います。

手掛けた「木」が使われる喜び

——自分のことだけではなく、ウイズのことも考えてくれていたんですね。



ウイズの送別会で、仲間と一緒に。



出荷するまで気が抜けません。

「144」の気付き 〜中嶋匠さんとの出会いから

（株）一戸製材所 代表取締役社長 梅垣俊輔

第144号にちなみ、このようなタイトルにしました。それはすでに144個、いやそれ以上の素晴らしいところ、良いところを中嶋匠さんに見つけているからです。

匠さんは今年の4月から正社員としてわが一戸製材所に入社、以来必要不可欠な人材となっています。就業から半年が過ぎましたが、初日から今日まで私はずっと彼に関心を持ち続けています。意識をそこに向けていると見えてくるもの、感じられるもの、気付くことがあふれてきます。

彼の初日の仕事は私と共に九戸スキー場への木材の配達でした。道中たくさんの彼の言葉や笑顔を受け、絶対に社会に必要な人材であること、そしてまた彼にも必要とする社会を結び付ける一助にならなければ、と強く思った記憶があります。

私は福祉に関して何の知識も経験もありません。ですから私の接し方が正しいか間違っているかは福祉に精通されている方々に判断していただければよいと思います。ただ私は日々彼に接し、彼の関心事に接し

続けること、そしてそれを共有できたならば人間関係、信頼関係は自然と築かれ、お互いを尊重し合い、前へ向かっていけるのではないかなと考えています。

7月に匠さんと取引先の十和田のお客さんの工場見学祭（展示会）に出向き、彼は来場されたお子さまたちのための射的コーナーを手伝ってきました。次第に子どもたちへの対応にも慣れて、最後はじゃれ合ったり相手に楽しんでもらうことで自分も楽しむ、という様子に変わっていきました。

8月には一戸町のお祭りに剛力として参加し、一戸町の広報にも同僚のカナンの園の先輩である齊藤翔太さんと掲載され、二人ともお祭りを楽しみつつ一戸町の盛り上げにも貢献しました。地域とのつながりの大切さ、重要さを体感できたのではないかと感じております。

現在は10月末まで続く大型物件の製材が忙しく、なかなか工場の外へ出掛けられませんが、今まで一生懸命加工した木材が利活用されている建築物、道の駅、老人施設、

小学校、小中一貫校等の現場と一緒に見に行けないのがもどかしいです。

いつでも他の社員と仲良く笑顔でやり取りをしている姿や、頼まれた仕事をそつなく確実にこなしている匠さんは本当に弊社の宝です。これからもこの宝が輝き続けられるよう、最大のエールを送る応援団長でいたいと思います。



梅垣社長とツーショット。

ことばひろい 第43回

お前たちの世話にはなりたくない。

ヒソプ工房事業所副所長 古川裕美

カナンの園に入職し、早くも16年がたちました。初めは、奥中山学園で6年間子どもたちと寝食を共にし、2014年、現在のヒソプ工房へ異動となりました。

ヒソプ工房では数年間生活支援員として働き、その後、ヒソプ工房にある相談支援事業所の相談支援専門員をすることとなり、そこで出会ったのがKさんです。Kさんは身体障がいのある方で、体調を崩し、障がいが進行したことで入所施設に入らざるを得なくなりました。しかし、なかなか受け入れ先が見つからず、やむを得ず一時的にある入所施設を利用して間もない頃でした。相談支援専門員は、ご本人の状態や希望などを把握し、望ましい福祉サービスにつなげるのが大きな役割で、私はその役を担うことになったのです。

ところが、ご本人はできていたことがどんどんできなくなっていく自分を受け入れられず、ふさぎ込み、食事もほとんどとらない、活動にも参加しない、寝て過ごすだけの日々でした。そこにやってきた突然の訪問者である私や市の職員に対し、何を聞かれても「俺は一人で生きていく。いい迷惑だ！」と声を荒らげるのでした。さらに私たちの役割を理解しても「お前たちの世話にはなりたくない。勝手に決めるな」と強い口調で拒否するのです。でもそれは決して本心ではなく、今の置かれた状況が語らせる叫びのようなものだということも分かってきました。

重ね「T事業所の所長と話がしたい」と初めて前向きとも取れる希望も聞け、所長に面会や施設見学の同行もお願いしました。それでもなかなか次の入所先は決まらず、私はいったいKさんに何ができるのかと途方に暮れるような日々でした。それでも定期的にKさんの下に通い続けるうちにまんざらでもないような様子で接してくれるようになり、こっそりT事業所のお菓子を差し入れすると、ちょっと照れたような表情で受け取ってくれるまでの関係となりました。その後、やっと新しい入所先が決まってきたのですが、最後まで「俺は一人で生きていく。お前たちの世話にはなりたくない」と彼の希望と私の計画案は一致することはありませんでした。



ですが、ヒソプ工房に異動して間もなく、担当していた利用者さんに起きた大きな出来事のことです。私自身が事態を受け入れられず、ついついその方の人生はこうだった、と評価するかのような発言をしてしまったことがありました。するとそれを聞いた先輩から「人の人生を勝手に幸せだ、不幸せだと決めつけるものじゃない」と指摘されたのです。

この仕事をしていると、本当にいろいろな方と出会います。ご本人のことはもちろん、ご家族やその他いろいろな状況が見えてくることもあります。その中には日常の社会生活を送っている中では知り得ないようなこともあり、ついつい「なぜ」と考えてしまうこともあります。

でも、結局は私という範囲の中で勝手に捉え、決めつけてしまっているんだよなあと今は考えるようになりまし。一人ひとりの声に耳を傾けたい、と思っけていても、なかなかKさんのようにはつきりと自分の感情を言葉にしてくれる方に出会える機会は少ないです。

「一人で生きていくって簡単なことじゃないよ」とKさんについて話しかけたくなる私がいま。これからはそうかもしれない。でも、だからこそKさんが口に出してくれた「勝手に決めるな」という言葉を常に忘れずにいたい、そう思っています。



優しい愛子さんのピアノがみんな大好きです。

バンドという音楽活動の場があったことを聞き、皆さんが好きな音楽活動をしたい、と思ったものの私はピアノは弾けず…。そうだ奥中山教会の長尾愛子さんがいる！とシオンと名付けた報告とお札を兼ねて、メンバーの皆さんと教会へ伺いました。その場で愛子さんから快諾していただき、さらに音楽活動だけではなく紙芝居や音楽に合わせて身体を動かすことを入れていこう、と「いきいきタイム」と名付けて活動を行うことになりました。

いきいきタイムは月2回（第二、第四金曜日）に行っています。5月から始まり、初めは愛子さんも私たちも少し手探りでしたが、今では「この歌やりたい」とリクエストも出てきます。



音楽に合わせて自然と笑みがこぼれます。

メンバーも、回を重ねるごとに表情が良くなり、元気に歌ったり、リズムに合わせて楽器を鳴らしたり、好きな歌や賛美歌に反応したり、とそれぞれに変化があり、新たな発見にもなっています。愛子さんも「教会で接する方たちだけでなく、たくさんの方と音楽を通じて親しくなれて、とてもうれしく思っています」とお話しされています。

シオンでは、これからメンバーと小さき群の里のクリスマス礼拝で演奏する曲を決め、練習をしていきます。どんな演奏になるか今から楽しみです。「笑って歌って楽しく疲れて帰ろうー」のスローガン通りの活動を愛子さんのお力も借りながら、皆さんと一緒に



「しぜんと虫たちの自由な森」三愛学舎本科3年 佐々木快斗。

2024年9月25日～29日、第26回

いわて・きららアート・コレクション

工藤紗織

緒につくっていききたいと思っています。（小さき群の里事業所支援職員）

いわて・きららアート・コレクションが開催されました。三愛学舎、カナンの園事業所からたくさん作品を出展しました。その中から三愛学舎の佐々木快斗さんの作品を紹介します。主に紙粘土を使用し、昆虫や植物の細部まで表現したステキな作品です。

みんなのカナン

今春よりコロナの行動制限もなくなり、動き始めた各事業所の様子を紹介します。久しぶりの楽しい行事に、自然と笑みがこぼれます。

念願の甲子園へ 暑い夏の思い出

8月22日から3泊4日で、生活支援センターのグループホームで暮らす内村直人さん、千葉勝美さん、佐々木誠二さんと渡邊とで、阪神甲子園球場での高校野球と大阪のユニバーサルスタジアム（USJ）を楽しむ旅行へ行ってきました。USJも楽しかったですが、何ととっても高校野球が熱かったです。甲子園で高校野球を観戦するのは直人さんのかねてからの強い希望で、今年100周年を迎えた全国高校野球選手権の決勝戦を観戦しに行こうということになりました。



「決勝のチケット、取れて本当によかった！」。好プレーに思わず拍手（千葉さん）。



左から内村直人さん、千葉勝美さん、佐々木誠二さん。

決勝戦当日。中央席入場口から入り階段を上がり通路に出ると「ドーン！」と球場全体が目飛び込んできました。テレビで見ていた広々きれいなグラウンド、そしてアルプススタンドに、直人さんは目をキラキラとさせ、「イエーイー！」と声を上げました。普段あまり気持ちを表に出さない3人が、三様のうれしそうな表情に、私まで気持ちが高揚しました。試合は両高校とも無得点のまま延長までいく白熱の一戦に。最後まで皆で声を張り上げて応援しました。

旅の終わりに誠二さんが満面の笑顔で「お仕事頑張ってたまた行きたいです！」と話す、その横で直人さんと勝美さんが大きくうなずきました。かけがえないたくさん思い出をお土産にした今回の旅行でした。（生活支援センター生活支援員 渡邊諭）

笑って歌って 楽しく疲れて帰ろう！

小さき群の里では、本年度から「笑って歌って楽しく疲れて帰ろう！」をスローガンに新たな活動の場として「いこいの里シオン」（通称「シオン」）が始まりました。小さき群の里は開設当初から「生き

がいくりのための労働」を大切にしてきました。利用者の方々の高齢化に合わせて顕著に見られてきた体力低下、身体機能の衰えにより作業だけではない活動の場が必要となり、シオンを設けることにしました。散歩や軽運動、看護師の力を借りてリハビリを中心とした身体機能低下を防止していく運動、そして音楽や創作活動等も取り入れながら、利用者さんたちが楽しみ、喜びを持って一日過ごすことを願って活動しています。

新たな活動の場を設けるに当たり、名前をどうしようかと職員間で悩んでいたときに「今までの作業科の名前は歴代の牧師先生に決めてもらっているから、今回も奥中山教会の長尾先生に趣旨を伝えて名前を考えていただく」ということになりました。先生から聖書にちなんだ二つの案を提案していただき、それぞれの由来となる聖書箇所を職員皆で読みました。そのうちの「シオン」について神さまからのお守りと祝福を象徴する言葉として「シオンの民」「シオンの丘」などが使われていることを知り、これからの新しい活動への願いを込めて「いこいの里シオン」としました。私はシオンの担当をすることとなり、前述の大きな方向性はあったものの、いざ活動を始めるとなると、皆さんが楽しめる具体的なものは、と頭を抱えていました。コロナ前まではゆうゆう